

ラーニング・サポーター ♪ 3月のつぶやき

-JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWUラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<3月のつぶやき♪INDEX>

p.1 気になる木 @T.K.(関連文化論専攻博士課程後期3年) 3月18日 tweet!

つぶやき1♪ 気になる木

皆様は、記念の木を植えたことはありますか?「〇回生卒業記念」と書いてあるような、あれです。私は高校生の時に、学年の木として桜を植えました。あれは今、どのくらい大きになっているのでしょうか。自分が直接植えたわけでもないのに、ふと気になりました。

何かの記念に木や草花を植えるという行為は、既に『万葉集』所収の和歌に詠まれているそうです。各地

に歴史上の有名人物による植樹伝説があり、不明な場合も御神木などとして大切にされてきた巨木が多くあります。大きな木を燃料として使うのではなく、後世へ守り伝えていくという感性が素敵ですよ。

明治以降は近代的な国家体制の整備と共に、植樹に関する書籍が多数出版されました。好意的な報道の影響もあり、日本では後世に向けて大切に育てていく「命の記念碑」として木が選ばれ、記念事業や追悼、都市開発の一環として植樹文化が形成されたそうです。

本学にも、卒業生の方々による記念樹があります。特に目を惹くのが、泉山館と八十年館の前にある大きなクスノキではないでしょうか。正門に入って正面左奥に、豊かな葉が茂っている様子がよく見えます。樹齢100年を超えるクスノキは、文京区の保護樹木になっていましたが、新キャンパスへの工事に伴い伐採される予定でした。しかし、有志の方々が署名活動を行ったことで保存が決まり、2019年に現在地へ移植されたそうです。

100年以上の歳月を経て、キャンパスは大きく姿を変えてきました。でも、クスノキはずっと学内を見守ってくれていたと思うと、少し不思議な気持ちになります。私たちの目に映るのは成長した巨木ですが、歴代の卒業生や学校関係者の方々の記憶に残るクスノキは、また違った姿を見せていたことでしょう。普段の学生生活では何気なく通り過ぎていますが、ふとした時に思い出すのは草木や自然の姿なのかもしれません。

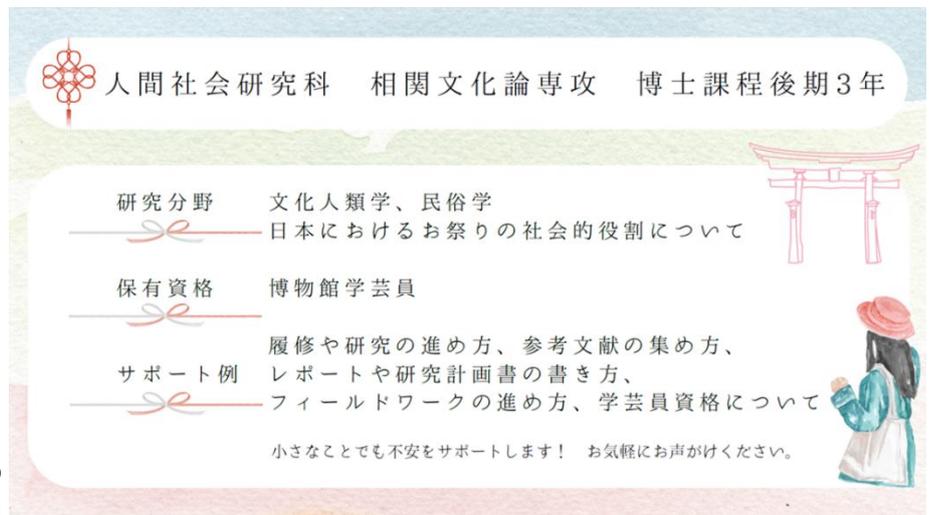
こうして、気になる木がまた1本増えました。今度はクスノキのそばにあるベンチで、ご飯を食べてみようかな。そんなことを思うのは、啓蟄の候だからなのでしょう。

参考文献

岡本貴久子 2016『記念植樹と日本近代—林学者本田静六の思想と事績』思文閣出版。

日本女子大学のクスノキを守る会ホームページ「日本女子大学のクスノキを守ろう！」

URL: <https://jwu-kusunoki.amebaownd.com/>



人間社会研究科 関連文化論専攻 博士課程後期3年

研究分野 文化人類学、民俗学
日本におけるお祭りの社会的役割について

保有資格 博物館学芸員

サポート例 履修や研究の進め方、参考文献の集め方、
レポートや研究計画書の書き方、
フィールドワークの進め方、学芸員資格について

小さなことでも不安をサポートします! お気軽にお声がけください。